

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入用）】			
事業所番号	4070402559		
法人名	有限会社 たんぽぽヒューマンサービス		
事業所名	グループホーム たんぽぽの家		
所在地	福岡県北九州市小倉北区中井5丁目6 - 28		
自己評価作成日	平成22年9月14日	評価結果確定日	平成22年10月30日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階
訪問調査日	平成22年9月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街の中で地域の住人として受け入れられ、少しずつであるも、交流の輪が広がってきている。利用者の方々の迎い入れる体制や職員のそこまでに導く努力が小さな実を付けてきている。目覚しい跳躍がないとしても、コツコツひとつづつを心がけて地域の方、学生ボランティアの方との交流を楽しんで利用者の皆様が日々、今、「この時、この一瞬」を過ごしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街に違和感なく溶け込むホームの外壁には、地域に向けた掲示板が設置され、認知症や介護に関する情報提供が行われており、相談や質問を受ける機会も増えてきている。また運営推進会議には、歴代の町内会長や長寿会会長、民生委員等、地域より多数の出席を得ており、町内にある様々な法人のネットワークづくりを災害対策等に活かして行こうとする提案もあり、実践的な連携が行われている。ボランティアの来訪の機会も多く、中でも社会生活学習活動として毎週訪れている北九州中央高等学園生徒達との交流が育まれ、今年の卒業式には入居者の方々も出席する等、新たな関係づくりへの支援も行われている。家族や地域、関係者との連携を大切にしながら、管理者・職員による細やかな気配りの中、入居者を主役とするさりげない支援が行われている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年の初めの定例会にて理念の共有を再確認し、実践につなげている。職員一人一人が理念に基づいて支援していることで向上している。	法人としての事業理念及び「たんぽぽの家」独自の理念のもとに、「たんぽぽの願い」を具体的に示しており、共生社会の実現や職員のきめ細やかな感性を研鑽していくことを、具体的に示している。年始の定例会や家族会等において、理念をあらためて確認し、関係者間で共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板でのお知らせより、カンガル(缶)車、見学、境川公園の清掃などの参加を心がけている。「たんぽぽだより」を回覧して頂いている。	地域の方々からの積極的な情報提供を受け、町内にある法人のネットワークづくりが検討されている。また、ホームとしても地域の独居高齢者への声かけにより、ホーム行事への参加へとつながったこともあり、相互に働きかけが行われている。通りに面して掲示板が設置され、事業所や認知症に関する情報提供が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	掲示板を新たにし、地域の方へお知らせしている。また、設立時よりの大きな看板が地域の方の目に留まるようになり、訪問、電話、散歩中などで、介護保険等についての質問が増えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況、入居者等に関するレジメにて理解して頂き、意見を頂きやすくして、その意見を向上に向けられるよう努めている。	運営推進会議には、家族代表・歴代の町内会長・長寿会会長・民生委員等、地域から多くの出席を得ており、活発な意見交換・情報提供を運営に活かしている。ヒヤリハット等の報告が行われ、意見を積極的に受け止めながら、地域に開かれた事業所としての取り組みが行われている事が確認できる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当包括支援センターとは運営推進会議は基より、運営上の相談等連絡している。	地域包括支援センターとの連携が主体となり、運営上の相談や不明な点の確認等を行っており、情報交換・共有に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常生活内で拘束となることを理解できるように職員間で周知徹底を図っている。 (玄関・ベランダ出入口、サイドガード、食食用エプロン、席での体勢において現在、拘束なし。)	グループホーム協議会の主催する研修に参加し、職員への伝達が図られている。身体拘束に関して全職員の理解を深め、意識を高める取り組みを行いながら、身体機能の維持・向上に向けたアプローチが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修の参加。 定例会にて研修発表にて職員間で周知し、防止に努めている。		

福岡県 グループホーム たんぽぽの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入所時に必ず説明。 入所後に必要と思われる方には、話し合いの場を設けている。利用されていた方が2名いたが退所となった。	入居時に、成年後見制度や日常生活自立支援事業に関する説明を行っている。これまでに成年後見人との連携を図りながら活用に向けた支援を行った実績もあり、資料の整備や研修計画に盛り込む等、必要時には支援できる体制の整備に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所前に時間をかけ、納得して頂けるよう説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情と同様。要望に関しても玄関に意見箱を設置していつでもご意見・要望を書け、また、持ち帰って出せるようにしている。用紙については郵送もしている。	アンケート用紙を家族に送付し、積極的な意見の表出を働きかけている。現在、家族会の更なる充実に向けて、家族主体の開催に向けた働きかけを行っており、次回からは進行についてもお願いする予定となっている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会にて意見の反映、提案を受け取り組んでいる。又、個人的にも意見について受けている。	毎月の定例会には職員の参加も多く、活発な意見交換の機会となっている。職員意見を広く求めながら、業務改善(記録様式の変更等)に積極的に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の特徴、向上心を理解し業務担当割りをしている。そのことに関しての意見は考慮して次回につなげている。働きやすい環境作り、休日希望についてはほぼ対応できている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたってはその方の条件に合う部署へと考慮している。採用後も本人の向上による配置換え希望にも出来る限り考慮している。	法人としての採用となり、人柄や高齢者への思いを重視し、年齢や性別による排除は行っていない。外部研修へは、希望や経験を考慮しながら順番で参加し、また本人の希望やスキルアップに繋がる異動についても、入居者への十分な配慮に努めながら柔軟に検討を行い、働きやすい職場環境づくりへの取り組みを行っている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホーム内研修にて行っている。	身体拘束や高齢者虐待防止、権利擁護等が研修計画に盛り込まれ、入居者一人ひとりの尊重を大切に支援を行っている。管理者は、職員の負担軽減の為に業務改善やストレスケアにも配慮している。	

福岡県 グループホーム たんぽぽの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修を掲示している。 希望も受け、内容によって職員にも勧めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと交流を図り、情報交換を行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者との会話により、不安要因を見極めて、ゆっくりと傾聴して、コミュニケーションを図っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族よりの相談事は内容によって、病院関係、保険外サービス、外部情報も考慮し、共に話し合う姿勢で行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思い等をゆっくりと耳を傾けて、納得できるよう説明を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活上の家事などをしてもらうのではなく、共に行い暮らしを共にする思いを大切にしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報に常に共有し、共に相談できるようにしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新たに生まれた馴染み作りにも支援している。	昨年の家族会ではそば打ちが披露され、家族と共に食卓を囲む入居者の方々の一段と明るい表情があった。また家族への手作り年賀状の作成を、入居者と共に行っている。	

福岡県 グループホーム たんぽぽの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格など考慮し、必要に応じ席替えを実施している。また、作業など協力してすることでコミュニケーションが図れるように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院、施設、面会、自宅の訪問をしている。出来ることは協力し、相談を受けている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	要望、意向はできる限り添えるように努めている。それに対して、本人、家族と職員が話し合う時間を設けている。	青春ノート「若き日の1ページ」と題されたノートを用い、日々の暮らしの中での何気ない言葉や、人生史等を記録している。今後は家族会の中で協力を得ながら、一人ひとりの生活暦等の把握を行っていく予定としている。	家族の協力を得ながら行われるアセスメントを活かして、個別支援の更なる充実や介護計画作成につながることを期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族よりの情報の把握を相談の上、早急な対応やゆっくりと時間をかけて対応を見極めて援助している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察の記録をきちんと申し送ることで、一人一人の対応ができています。コミュニケーションも良好である。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必ずニーズの説明、家族の要望を受け作成している。 朝の申し送り時に、ニーズについて話し合いをしている。	個別の状況に応じて期間が設定され、モニタリング・担当者会議等を通じて、本人・家族等の状況や要望の変化を、介護計画作成に反映させるよう努めている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン、個人ノート(長期)本人、家族からの情報を記入している。		

福岡県 グループホーム たんぽぽの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活の様子、病状などをその都度説明し、ケアについても相談をしながらの対応でより良いものにできるよう取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、町内会長を経て、行事ではお誘いを伝えもらっているが、参加は少ない。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師の指示、家族の要望を相互へきちんと伝え、ご本人様のより良い方法で支援している。	本人・家族の希望するかかりつけ医との関係を大切にしながら、適切な医療活用に向けた支援を積極的に行っており、家族・医師の関わりを保てるよう努めている。内科・眼科・歯科の定期的な往診がある。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医への連絡をお願いしたり、不在時などは相談にのってもらっている。時間外は特に主治医との架け橋になってもらっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携室があれば、情報共有でかなりスムーズでできるが、病棟のみであれば、中々把握しづらい。面会へ行く、病棟へ連絡するなど、家族よりの相談事がスムーズに行えるようにしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	方針的な部分はその都度、説明を行っている。ご家族の思いの把握は書面にて理解している。	重度化や終末期に向けたアンケート調査を実施し、現状での意向確認及び方針の共有に向けた取り組みが行われている。状況の変化に応じて話し合いを重ね、関係者間での方針の共有を図っている。これまでに、重度化・終末期に向けた研修も行われている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状況に応じたマニュアルを作成し、職員の目の付く位置へ掲示して周知しているが、定期的には行っていない。		

福岡県 グループホーム たんぽぽの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時用の連絡網、災害時のマニュアル、避難訓練などを実施している。 運営推進会議で協力体制ネットワーク作りを相談中。	町内には法人も多く、運営推進会議の中で法人ネットワークづくりに向けた働きかけが地域より行われており、災害時等に活かしていく構想がある。年2回、入居者も参加する避難訓練を実施し、地域住民の参加を得ている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合った声掛け対応を心がけ援助している。	入居者一人ひとりの生活習慣を尊重し、個別の時間の流れを大切にした支援に努めている。事業所理念や「たんぽぽの願い」の中でも、入居者の尊厳や誇りを大切に支援していくことを謳っており、その実践に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくり傾聴し、聞く体制や環境にも配慮し、訴えやすい雰囲気作りに努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	性格や心身の状態を日々視察して、無理強いのない声かけで援助をおこなっている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣交換は本人と共に声かけの上、着替えの援助をしている。洋服1枚、小物1つで話題を広げて会話している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理本を広げ、メニューが決まることもある。一人でコツコツされる方、皆と一緒に会話を手伝われる方、職員と会話しながらを好む方など、一人一人の気持ちを考慮している。	嗜好調査を実施し献立作りに反映させながら、定期的に栄養バランス・カロリー量等の点検を行っている。野菜の皮むき等の下ごしらえに力を発揮してもらいながら、職員と共に同じテーブルを囲んでいる。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	独自のカロリー計算およびメニューの見直し。専門の栄養士の講座を開催。嗜好調査の実施。		

福岡県 グループホーム たんぽぽの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立心をそこなわないよう手助けしている。トラブル時はすみやかに歯科医への連携で指示を受け援助している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿リズム把握。その時の状態に応じたパット等の選択。声かけすることで安心感を感じ、自信に繋がるよう見守っている。	排泄チェック表を用い、個別の状況やパターンの把握を行いながら、トイレ誘導や排泄の自立に向けた支援を行っている。日々の暮らしの中で、機能を高めていく取り組みを行い、夜間も含め、おむつを使用している方は殆どいない。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表チェック、水分補給、食事の工夫、廊下での歩行を援助している。主治医とも連携し、内服コントロールの指示を受けている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日、時間帯は目安として決めているが、その時のその人の状態、要望を考慮して支援している。拒否がある場合は、静かな場所にて傾聴することを心がけている。	ある程度の入浴スケジュールはあるが、希望や状況に柔軟に対応しており、入浴されない日には足浴を行う等の支援を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後よりお昼寝タイムとしての声かけを行っている。夜間に差し障りがある方も時間帯、時間を相談してのお昼寝をしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止も含め、服薬ノートを作成して薬の把握に努めている。服薬時は名前を呼び、日付等を声を出して入所者の方にも伝えている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯物、食事下準備等、意欲的にできる環境作りをしている。 行事食は、料理の本を皆で見ながらメニューを決め、楽しんでいる。		

福岡県 グループホーム たんぽぽの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○ 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	介護タクシー（保険外）利用での外出や散歩、買物。要望に応じて対応している。家族への連絡も密に行って実施できるよう支援している。	季候や希望に応じて、ホーム前の境川公園への散歩や、近隣のコンビニエンスストアへの買い物に出掛けている。家族との連携を図りながら、介護タクシーも活用している。	
52		○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理に関してはご家族のご理解を得て、本人が管理している方もいる。		
53		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話はかけられることは伝えているが、時間帯を考慮して相談している。		
54	(22)	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月間で交換している壁画が季節を表している。日常の生活ぶりや行事時の写真コーナーが自分の居場所を感じてもらえるよう選んで掲示している。	毎月、その季節に応じた手作り作品（花・果物等）が入居者の方々と共に作成されており、室内を彩っている。リビングにはソファ、庭を眺めることができる廊下にはベンチが設置されており、それぞれの方々にとってのくつろぎの場所が確保されている。	
55		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間をそれぞれ場所、自席、ソファ、廊下のベンチ、玄関のベンチ、居室で入所者間、職員間とのコミュニケーション、または一人で過ごす時間を楽しんで頂いている。		
56	(23)	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた物、思い出の品等、家族と相談して配置を考慮している。自分が作った作品を飾っている。	得意とする書道の作品群や大相撲の写真が飾られている居室もあり、個性あふれる居室作りが行われている。部屋の向きによっては天窓が設けられている居室もあり、採光への配慮が行われている。	
57		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関やベランダ出入口を閉鎖することなく、自由にホールと同様、生活範囲内として見守っている。		